

当院を受診された患者さんとそのご家族および代理人の方へ

当院では下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、連絡期間内に、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

受付番号	20210240
研究課題名	結節性石灰化病変に対するデバルキングと薬剤溶出性ステント留置後の再狭窄の特徴
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 心臓血管センター / 伊藤 良明
連絡期間	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、西暦2022年6月30日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
研究の目的と意義	「労作性狭心症と診断された患者さんのひとりひとりに最も適した治療方法は何か」を明らかにし、より良い治療法の選択に役立てることを目的として行っています。
研究の方法	担当者が対象となる方のカルテ（診療記録）を選び、検査の値、その後の経過、特に手術を実施した場合は、いつ手術を実施したかについての記録を集計させていただきます。
対象者	2008年1月1日から2019年12月31日のあいだに、当院で結節性石灰化病変が原因である労作性狭心症に対してロータブレーターを使用してカテーテル治療を施行された患者さんのうちの一部のかたを対象としています。
利用する試料/情報	性別、年齢、既往歴（高血圧、脂質異常症、糖尿病、透析）、現在の喫煙歴、過去のカテーテル治療有無、過去の心筋梗塞有無、過去のバイパス手術の有無、左心機能、内服薬（ACE/ARB、ベータブロッカー、抗血小板薬、冠動脈造影上の狭窄の部位、石灰化の程度、石灰化結節の有無、冠動脈造影上の狭窄の種類（分岐部、完全閉塞、入口部、安定狭心症、不安定狭心症）、手技時間、造影剤使用量、透視時間、手技中の合併症発生有無（冠動脈穿孔、末梢塞栓症）、治療後院内成績（院内死亡の有無）、緊急再カテーテル治療の有無、緊急バイパス術の有無、手技後心筋梗塞の有無、穿刺部合併症有無、カテーテル治療前後と2年後follow時の血管造影所見（最小血管径、参照血管径、狭窄率、病変長）、手技中の血管内超音波所見（最小内腔径、最大内腔径、最小内腔面積、最小血管径、最大血管径、血管面積、石灰化の特徴、石灰化結節の有無）、再狭窄症例に関しては再狭窄のパターン、再狭窄症例の治療時の血管内超音波所見（石灰化結節の有無）
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
研究資金源	研究者の私費
利益相反	研究者に利益相反関係（企業から研究費や講演料等を受け取っている）にある者が含まれます。しかし、当該研究者はデータ収集、管理、解析に関与せず、研究結果が企業にとって有利なように誘導されることはありません。
結果公表	論文発表をする予定です。
研究終了後の試料/情報の取り扱い	研究終了報告日から5年または最終の研究結果報告日から3年のいずれか遅い日まで保管し、匿名加工情報として廃棄します。
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000 済生会横浜市東部病院 循環器内科 / 小林 範弘